

## 福島第一原子力発電所廃炉検討委員会セッション

「福島第一原子力発電所廃炉検討委員会」廃炉に向けた技術開発の現状  
Progress of R&D for the decommissioning of The Fukushima Daiichi NPS

## (5) 総括・廃炉検討委員会の取り組み

## (5) Efforts of Review Committee on Decommissioning of the Fukushima Daiichi NPS

\*宮野 廣<sup>1,2</sup><sup>1</sup>廃炉委委員長, <sup>2</sup>法政大学

## 1. はじめに

東京電力福島第一原子力発電所事故(東電福島事故)を防ぎ得なかったことを真摯に受け止めて、平成26年度(2014年)に「福島第一原子力発電所廃炉検討委員会」(「廃炉委」)を設置し、活動を進めている。

福島第一原子力発電所で進められている事故炉の廃炉は、世界でも初めてのチャレンジであり、英知を集めた対応が求められる。これに対しては、日本原子力学会は、学術的な支援と提言等を行うための活動として「福島第一原子力発電所廃炉検討委員会(廃炉委)」を中心に、関係機関と協調し、関連学協会とも連携して学術的な課題の解決に貢献すべく取り組んでいる。さらに、学際的活動として、36学協会が参加する「福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会」と協調し、福島第一の廃炉の情報を提供し、学術界全体として協力体制を構築し、更なる活動の拡大を図っている。

## 2. 2018年度の活動

東京電力福島第一原子力発電所の廃炉は、事故炉の廃炉としてかつて経験のない技術的な挑戦を伴いつつ、極めて長期にわたり継続される事業である。この問題に長期に取り組み、事故炉の廃炉が安全かつ円滑に進むよう技術的・専門的な貢献を行う活動を進めている。

廃炉委では、個別検討課題に取り組むために分科会を設置し活動を進めている。事故進展に関する未解明事項のフォローWGや、建屋の構造性能検討分科会、ロボット分科会、廃棄物検討分科会に加え、今年度は「リスク評価分科会」が成果をまとめ活動を終え、新たに燃料デブリ取り出しでのリスク評価に着目した「廃炉リスク評価分科会」を設置し、福島第一の廃炉をリスク評価に基づき進めるためのリスク評価法を確立すべく支援を進めている。成果は、原子力学会のHP(下記)にまとめている。

([http://www.aesj.net/activity/activity\\_for\\_fukushima/public](http://www.aesj.net/activity/activity_for_fukushima/public))

今年度は、廃炉委として議論しなければならない課題を取り上げ、専門家で深く議論すべくテーマ毎のワークショップを開催してきた。

- ・1F廃炉－廃炉の論点と対応
- ・事故炉の安全確保と管理目標
- ・廃炉とサイト修復の最終の姿に向けた廃棄物の取り扱い
- ・廃炉における放射性廃棄物・放射線の閉じ込めのためのバウンダリの考え方
- ・自然事象に対する事故炉の安全性評価
- ・ロボットの信頼性をどのように担保するか

などの検討を行ってきた。これらの成果は報告書として広く活用されるように逐次公開して行く。

## 3. 今後の活動

学会は社会とのインタープリターの役割があり、福島第一の廃炉の現状、課題とその解決策などの説明や意見聴衆は重要なものである。専門家集団として、積極的に課題解決の支援を続ける。

---

\*Hiroshi Miyano<sup>1,2</sup>

<sup>1</sup>Chair.of 1F Decommissioning Committee AESJ, <sup>2</sup>Hosei Univ.